

令和元年度 第3回野洲市総合計画審議会 議事録要旨

●日 時

令和元年 12 月 19 日（木） 14:00～16:20

●場 所

コミュニティセンターやす 2 階 研修室 1・2

●出席委員（委員区分毎・50 音順）

1 号委員：田中 勝也委員、新川 達郎委員、原田 小夜委員

2 号委員：浅田 邦保委員、入江 幸一委員、奥邨 武和委員、北村 真治委員、木村 靖委員、
黒木 稔委員、柴原 喬委員、田渕 勝美委員、中塚 勝委員、苗村 明夫委員、
野口 明委員、羽田 慎二委員、林 かずみ委員、松沢 松治委員、山口 桂子委員、
山中 清嗣委員、山本 一郎委員、山本 博一委員

4 号委員：井上 輝子委員、松井 佑太委員

●欠席委員（委員区分毎・50 音順）

1 号委員：大野 裕己委員

2 号委員：衛藤 信之委員、水島 章夫委員、望月 幸三委員、

●事 務 局

竹中政策調整部長、吉田政策調整部次長、玉川企画調整課長補佐、垂企画調整課主査、
松井企画調整課主事

●傍 聴 者

4 名

1 開会

（1）市長あいさつ

2 審議事項

（1）基本構想素案について

—事務局より資料説明—

◇委員からの主な意見・質問

【委員】農林漁業面からの本市の課題についてであるが、農林漁業はびっくりするほど生産額があがるわけではなく、後継者不足の問題もあるが、災害を防いだり、気象変動を緩やかにしたり、景観や生物多様性に寄与したり、多面的機能を有している。その多面的機能が十分発揮できるような地域にしていくことが今後大切だと思う。

また、野洲市にはこれといった特産品がない。昔は三上山はマツタケがよく出る山だったが、今はない。夢ではあるが、マツタケが出るような山にしていきたい。野洲市の PR にもなり、いろいろなことに発展していくと思う。他にも、ニゴロブナやビワマス、セタシジミが復活できるような環境ができればいい。

総合計画が子供から高齢者までの 1 つの手引書になり、各家庭や職場に 1 冊置いてもらって、い

ろんな市民生活の中で生かしてもらえるようなものになればいいと思う。

【委員】将来都市像を考えるにあたって、現在の一番大きな問題に人口問題がある。近隣の自治体も人口減少対策でいろいろな施策をやっていく中で、人口の取り合いになる。現状で考えると、近隣に比べると、野洲市はちょっと魅力が少ないかと思う。先ほどのマツタケ山のように、30年、40年後の理想の野洲市像を考え、そこから逆算してまずこの10年をこうしていく。と同時に現状の課題から出発し、それを克服するためにこうするという、その両輪で計画を立てていきたい。理想や夢も半分頭におきながら作っていきたい。

【委員】全世代型地域包括ケアシステムの中心となる野洲病院の機能について、高齢者の認知症施策や母子包括に関する小児の部分が十分でなく不安を感じている。また、医療的ケア児の問題は子育てで扱うのか、障がい者なのか。全世代型で考えたときに、子どもが生まれ、そこで元気に育てばいいが、障がいのある子供が生まれたとして、その子がこの野洲でどういう暮らしをしていくのかということも描いたプランがいるのではないかな。

野洲駅周辺の活性化について、活性化して何をするのかという夢があるといい。駅前の大型銭湯がなくなったが、今お風呂難民が増えている。駅周辺に来たらいろいろなことができて、くつろげて、病院にも健康づくりに特化したような機能を入れてもらって、もうちょっと駅前の活性化のイメージが広がるといい。

【委員】資料の中では自然環境の保全、環境問題の市民への意識啓発、生活環境の改善と、環境という熟語が3つ出てくるが、一つ一つ意味が違う。環境問題については、地球温暖化の問題、琵琶湖の保全という視点がはっきり見える形で議論させてもらいたい。

【委員】人口減少については、市街化区域をいかに増やすのかを考えないといけないが、市街化区域にしたにも関わらずそのままとなっているところもあり、計画的に進めていくことが必要である。

【委員】スポーツについては、ハード面の課題も多いが、結局その施設を各団体がいかに有効に活用するかがポイントとなると思う。高齢化が進んでいる中、いかに健康で長く生きるかを考えるといういろいろな活用が考えられる。そういう意味では、子育て・教育・人権分野と福祉・生活分野は密接した関係があり、うまく連携しながら進めていけばいい。

また、入管法が改正され、外国人が増えている。外国人に市民としてどう対応していくかが課題である。

【委員】高齢化が進むとますます特別養護老人ホームの待機者が増えると思うが、その問題を今後どう検討するのかを課題として提起しておきたい。また、介護職の人材不足の問題もあり、ハード面ソフト面共に検討していかないといけない。人材育成というのは時間がかかるし、野洲市だけで対応するのは難しいとも思うので、広域で考えるのも1つの方法かもしれない。

【委員】教育関係でいうと、スポーツはいろいろな団体がされているが、文化・芸術・科学などが育まれる環境が乏しい。多様化の時代であり、スポーツ以外の分野でも、子どもたちが自信を持って、将来に向かって成長できるような環境づくりが必要ではないか。また、自分たちがしたいことがあった時に行ける場所があることも大切であり、野洲市には各地域にコミセンがある。いつでも行って勉強や趣味の活動ができ、自分探しができる場所があることによって子どもたちが大きく成長できる。教育関係であげられている課題は、虐待や不登校等支援の必要な方のことばかりであるが、それ以外にも人を育てる、人づくりの項目も入っているのではないかな。

【委員】景気が悪くなると文化方面は縮小されていくが、子どもたちと文化をつなぐような環境は必要である。また、野洲には大きい企業がたくさんあるのだから、企業と協力して人が集まるようなにぎわいを作っていくことでまちが栄えるのではないか。

【委員】まちづくりは人づくりであり、人づくりとは市民の意識改革である。市をこうしたいから市に言うのではなく、市民自らがどうしたらその理想とするまちに近づけるかを考えるべきである。市民と商工会や金融機関と行政が三位一体で市民を応援するような仕組みづくり、風土づくりをしていかないと市は立ち行かなくなると思う。野洲には野洲の誇りがあり、アイデンティティがあるのでそれを守るために市民の意識改革が必要であり、そのための指針となるのがこの総合計画ではないかと思う。

【委員】今の意見に賛成で、当然市民参加でしていかないといけないと思う。将来のあるべきまち、理想のまちとして、「誰もが健康長寿でピンピンコロリを達成しているまち」「自動パーソナルモビリティでいつでもどこでも行けるまち」「自然と調和し、地域の持ち味を生かしたまち」「人と機械（AI、ロボット）が共存しているまち」「全ての住人が都市経営に参加意識を持っているまち」「育児支援システムが充実し、社会全体で協力して子育てするまち」「想定以上の災害に対しても深刻な被害とならない安全・安心なまち」「食料、エネルギーをある程度自給自足できているまち」「みんなに行き渡る質の高い教育環境が確保されたまち」がいいかなと思う。

【委員】野洲市は自然がいっぱいあるのだから、子どもたちが自然に親しむ場所を大切にしてほしい。子どもたちが自由に自然の中で遊んでいるようなまちが理想のまちである。今ボランティアでそういう場所を整備しているが、ボランティアが高齢化しており後継者がいない。子どもたちが自然で遊ぶ場所がなくなるのではないかと、今後のことが心配である。

【委員】バス事業をしているが、バス問題については滋賀県ではどこでも課題となっている。バス乗務員の人手がなかなかない中で、どう有効に資源を使い、事業を成り立たせるかということを考えないといけない。滋賀県は鉄道沿線に住む人が多く、マイカーの保有率も高く、平地が多く自転車どこへでも行ける。「今は乗らないが、車に乗れなくなったらバスに乗る」と地域に話に行くと言われるが、バス事業の存続を考えねばならず、不採算とインフラとしてのバスの位置づけについては、課題解決の糸口が難しい。

【会長】公共交通は民間バスに依存しているところが大きいが、交通機関としてのインフラ、それを支える人的資源等いろいろな問題が同時に起こってきており、しかも高齢化が進む中で、将来が見通しにくい。その中で公共交通のあり方、バスの位置づけというのを改めて考えていかないといけない。重要な問題である。

【委員】人口が減っていく中、にぎやかなまちにしようと思ったら、観光客など外から人が集まるようにすることを考えないといけない。マイアミのオートキャンプ場は景観がよく、ずっと満員であり、琵琶湖をターゲットにする必要があるのではないか。私も家棟川の流域観光船を運行しており、何とか野洲の起爆剤にならないかと思っているが、野洲駅からのアクセスがなく、宣伝しても来る手段がない。しかし、まずバスを動かしてくれというよりも、利用者を増やさないと無理かと思っている。

【会長】定住人口だけでなく、交流人口、最近は関係人口という言い方をするが、野洲に来てくださる方、関心を持ってくださる方、その中で定住する方や繰り返し来られる方が増えるようなまちにし

ていくこと、またそのために琵琶湖や観光振興のことを考えるといいのではないかというご意見をいただいた。

【委員】公共交通の重要性というのは、市民意向調査から見てもトップのニーズだった。公共交通がもう少し充実しているといろいろな人が来やすく、それが地域経済にも波及する。しかし、ニーズは高くても意外に乗らないというのも事実であり、そこを考えるのは喫緊の課題であると思う。

コンパクトシティのまちのあり方を考えるのは公共交通と密接に結びついたテーマであり、地球環境問題や地域の環境にも大きな影響を与える。まちづくりと環境保全、交通整備も含め、一体的に考えないといけない。それができるのはこの審議会なので、いろいろと課題が山積みで難しい中でどれだけ連携して考えていけるかというのが課題となる。

長期的には人口は減っていくことは確実で、抑えるためにはどれだけ人を呼び込めるかということになる。市民アンケートは回答者の年齢層が高く、若い人の意見がすくえていないので、できれば転入者や転出者に簡単なアンケートをしてもらえないか。どういう理由で野洲を選択したのか、どういう理由で野洲を離れることにしたのか、そういうところからまちづくりのヒントが見えてくると思う。

【委員】企業の方から、従業員を増やしても野洲には住むところがない、何とかしてほしいという声をよく聞く。すぐには難しいとは思いますが、長期構想できちんと考えていかないといけない。

【委員】中高年のひきこもりと高齢者の親の生活について、いわゆる 8050 問題がある。ひきこもりはなかなか発見がしにくく、また、これを貧困の分野で対応するのか、障がい者の分野で対応するのか、相談に行ってもたらい回しにされるという問題も出ていると聞く。そうした切り口で課題を捉えておかないといけない。

【会長】厚生労働省は地域共生社会ということを言っていて、これは地域社会の中で包括的に様々な課題を全方位で考えていく、そして共に助け合っていくというイメージであり、野洲市の未来にそれをどういうふうに位置付けていくか、皆様のお知恵をいただければと思う。

【委員】基本構想の 23 ページの基本目標 1 から 5 までの「〇〇なまち」という表現ではなく、中身だけでもいい。

22 ページのめざす将来都市像は、「自然と調和し、安全・安心で、みんなが参加意識を持って暮らすまち」、みんなで作っていきこうというイメージで案を考えてみた。解説のところはだらだら書くよりも箇条書きで、こんなまち、こんなまちという書き方でもいいかと思う。

【委員】野洲は JR の車両基地があるので、かなり本数を確保している。市民アンケートの中でも JR が便利であるということが上位を占め、それが特色となっている。利便性が高いところは住みやすいが、現在市街地が少なく、住みたいと思っても住めない課題がある。人口が減っていくと JR も本数を減らさざるを得ないという悪循環になるので、今の本数を維持できるよう定住人口の増加に努力いただきたいと思う。

【委員】まちづくりはお金を得る方向もあるが、出ていかないように医療費の削減や健康寿命の維持等も必要である。

また、介護の面では、他市にはあるが野洲市にはない施設があり、在宅での介護がしにくい状況がある。野洲市として対応していくところを具体的に出していかないといけない。

【会長】地域の個性、特性、歴史や文化で作られてきているところがあるが、もちろんこれからの新し

い施策の方向もあり、それらをしっかり踏まえて検討いただきたい。

【委員】地域差についても考えていかないといけない。

【委員】それぞれの施策について言えると思うが、多様性というのを重視してもらえればと思う。ひきこもりについても、ひきこもっているからといって何もできない人ではなく、長けたところもあるはずであり、活躍していける場が見つかるような文言でまとめていければいい。

【会長】未来の野洲市の可能性は、それぞれの地域の違いを埋めるということもあるが、同時にその違いをいろいろな側面で認め合うことでもっと豊かな野洲市になるかもしれない。

課題や将来のまちの理想像等たくさん意見をいただいた。これらについては基本的に今日結論を出すものではなく、部会での議論が煮詰まってきた段階で改めて基本構想の議論を行う。

3 審議事項

(1) 基本計画の策定について

—事務局より資料説明—

(2) 市民参加の手法について

—事務局より資料説明—

◇委員からの主な意見・質問

【会長】様々な年齢層の方が自由に議論できるような場が作れればいい。

【委員】農林漁業は農業だけでなく、青少年教育や福祉、環境や都市計画にも関係する部分があるが、他分野に関係することについては、そこで取り入れてもらえるのか。

→（事務局）1つの分野が1部会だけに当てはまるのではなく、あちこち関連する分野というのは出てくると思っている。整理については今後中身を話し合う中で考えていきたい。

4. その他

部会の日程について、事務局より説明。

5. 閉会